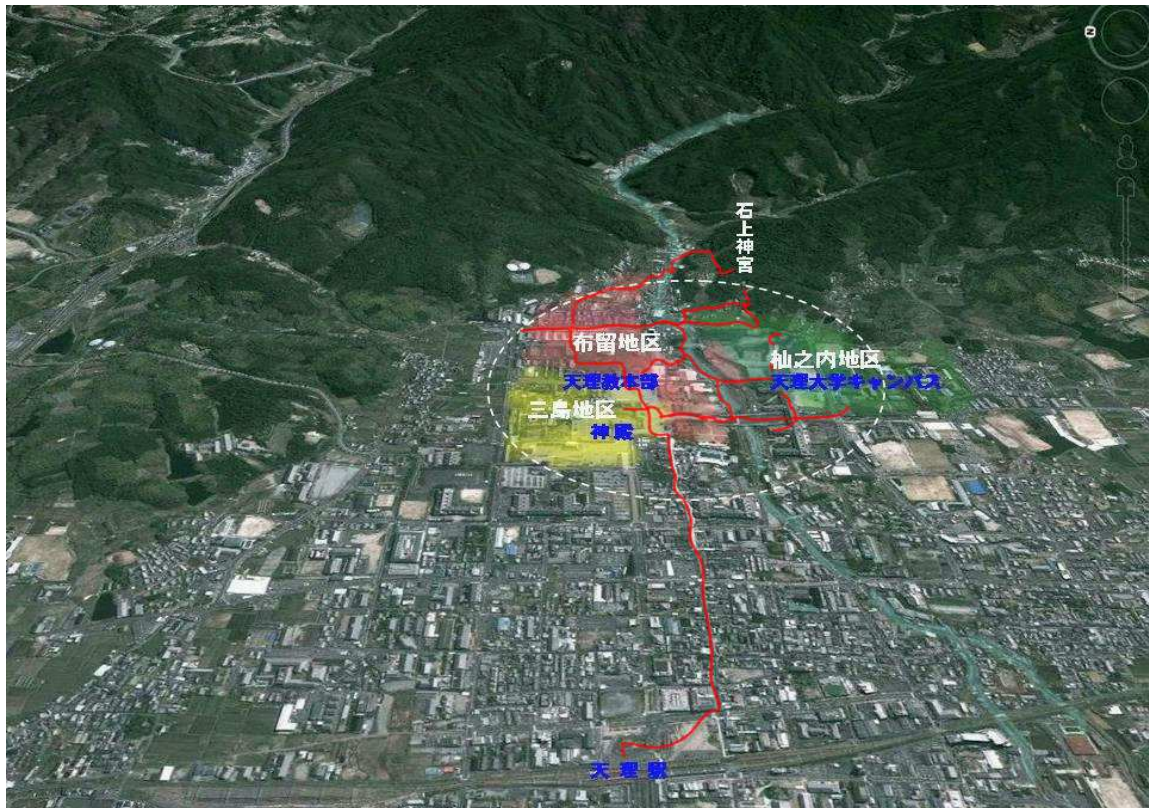


3. 物部氏の本拠 天理市布留遺跡 再訪 再訪 Walk 2012. 5. 19. 遺構・遺物の出た場所を意識して 布留遺跡を歩く



天理市布留 天理教本部 神殿境内から東方 布留の山並みを眺める 2012. 5. 19.



南北に細長い奈良盆地の東の縁のほぼ真ん中 布留川のなかれ出る扇状地が天理市布留
すぐ南側の巻向・三輪山を経て 飛鳥へ 古代東西の重要路 山之辺の道が続き、
すぐ北側を名阪道路が東へ山を越えて行く。今も昔も 大和の交通の要衝である
この初期大和王権の北の守りの位置「布留」に 大和王権の軍事を担った物部氏が本拠地を築いた



Google earth の衛星写真で見ると物部氏の本拠地「天理市 布留」は東の山並みの間から西へ流れ出る布留川の扇状地。
その出口の山裾から 石上神宮が見下ろす扇状地の中央を布留川が流れくんだり、その両側のなだらかな傾斜地に 初期大和王
権を支えた物部氏の諸施設が立ち並んでいた。現在はそこがそっくり天理教の本拠地で神殿や天理大学など天理教本部の諸施

設や関連施設が緑に取り囲まれて建っている。 何度か歩いたことがあるのですが、改めて衛星写真に布留遺跡の位置を重ねると扇状地であることが意識され、大和王権を支えた本拠地となったわけがよく判った。

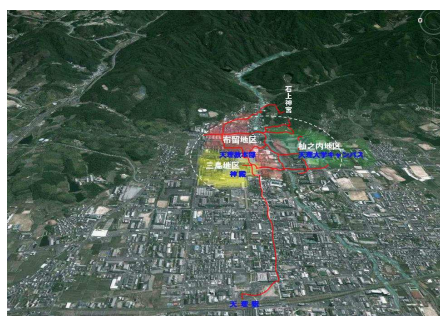
一方 布留川の氾濫に悩まされたことも、「大溝」の開削遺構や居館を取り囲む石敷遺構などに見て取れる。

本などで「布留遺跡」は神殿を中心とした天理教諸施設の下に眠る「大和が日本の中心になる過程のタイムカプセル」
やっぱり 直に どんな場所からの遺構・遺物が出たのかを見たいと気になってきました。

大布留遺跡展と関連講演会参加で、具体的な布留出土の遺構・遺物 そしてそれらが出土した概略場所の地図も頭に入れて、講演会の前後に 各遺構と遺物の出土位置を頭に置きながら ぶらぶらと天理布留界隈を歩きました。



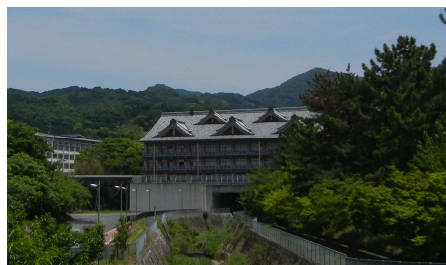
3.1. 宗教都市天理と「おやさと」「おやさとやかた」



天理駅 東側の広場



駅前から神殿へ東へ通じる長い商店街



布留川沿いに建つ おやさとやかた 南棟 2012. 5. 19.

5月19日 今回は神戸から近鉄奈良西大寺乗換えて天理駅に降りる。

ここには JR 桜井線と近鉄天理線の併設駅で 東に出ると広い駅前広場 ごみひとつない駅前広場であり、東側 山裾までつづなだらかな傾斜地には天理教関連の建物が立ち並び、天理教の法被を着た全国の信者さんが集まってくる「天理教の宗教都市」。

ここは「おやさと・親里」

駅前から東へ天理教の神殿の横までおよそ 800m の長いアーケード商店街が延びているのですが、日本各地からやってきた人も含め、お互いが挨拶をかわす。やさしさとあたたかさがあふれる商店街である

宗教都市と言っても 天理教神殿はじめ諸施設は どこも自由に出入りが出来るばかりか、「おやさとかた」と呼ばれる独特の外観をした4階建てのおきな建物の中央を大きな道路が通り抜け、自由に通行できる。

天理教の法被を着た人を街のあちこちで見かけることを除けば まったく気を使うこともなく、おおらかで、気持ちのいい街。

自転車に乗って商店街を走り抜ける高校生も実に規則正しく、さわやか

ちょっと 大阪の街では考えられぬ景色である。

天理教の本拠神殿と共に現在の天理の宗教都市のイメージを作っているもうひとつの建物群に「おやさとかた」と「詰所」がある。

天理の街に入ると 50 を優に超えるでしょうか 同じような外観を持ち、各地の地名が大きくかがけられた天理教信者の宿舎ビル「詰所」が街のあちこちにあり、思わず知った地名を探してしまい、「天理へ来た」と思う景色のひとつです。

そして もうひとつ 天理教の本拠神殿と共に現在の天理の宗教都市のイメージをつくっている建物群「**おやさとかた**」

詰所建物のイメージの原型になった天理教施設独特の千鳥破風の大屋根と統一外観を持つ巨大な横長4階建てのコンクリート建物群がそれである。駅前から東の山裾への傾斜地を登ってゆくと「あれ さっき見た建物か??？」と錯覚する建物群が神殿の四方を取り囲むように樹木の上に頭を出している景色に出会う。



「おやさとかた」 <http://www.urban.ne.jp/home/katanaka/yakata1.htm> より



布留川沿いに建つ おやさとかた 南棟 2012. 5. 19.

私は良く知らず、軽く「天理教本部の建物だから統一されているのだろう」と思っていたのですが、これらの建物は「おやさとかた」と呼ばれる建物で、『『屋敷の中は、八町四方となるのやで』』という教祖のお言葉』に基づいて 神殿・ちばを囲む八町 約900メートル四方の線上に計画的に建設整備されている建物で、完成した棟には天理大学、天理参考館、よろず相談所いこいの家（病院）、別席場、高知詰所、敷島詰所など 教義の研修、信者修養、病院、教育施設などに使われているという。

建物の外観は全て統一され、千鳥破風の屋根に赤い窓枠、橋の欄干のようなバルコニーの手すり、さらに1階～2階部分は吹き抜けになっていることも多く、生活道路や川の上を建物が跨いでいる事もある。

天理駅の東側 布留川がその中央を流れ下る傾斜地に山際までひろがる布留の街

これらの建物群や神殿など天理教本部の諸建物の建設・整備に伴う発掘調査で、

布留遺跡がベールを脱いだとも言える建物群です。

時間的には前後しますが 天理参考館で開催中の大布留展に行ってで知った遺構・遺物そして出土位置などを一緒に入れて 初期ヤマト王権を支えた物部氏の大集落があった布留界隈 今は天理教神殿などが建ち並ぶその下に眠っている。

以前にも何度か歩きましたが、 新しい知見を頭に入れて 布留の街 再訪 Walk を整理しました。

3.2. 天理教神殿ほか 天理教本部（布留遺跡三島調査地区）から丘の上 布留の十字路へ

前置きが長くなりましたが、駅前から東へ約 800m ほど伸びる長い商店街を抜けると神殿の広場横。ここから東側山裾までの広い地域全体に天理教関連施設がひろがり、その地下に重なって 物部氏の本拠地。

講演会が始まるまでたっぷり時間もあるので、なだらかな傾斜地に広がる界隈を天理教神殿などを見学しながら、扇状地の角 布留の交差点まで上って行って、そこから布留川沿いを大布留展が開催されている天理参考館まで下ることにする。



天理教本部の主要諸施設の地下に重なる布留遺跡

駅前から 東へ伸びるアーケードのある商店街 10 分ほど歩けば、東の山端まで 白砂が敷き詰められ、その中央に神殿が建つ天理教本部の敷地内。 周囲を山の緑に包まれて建つ神殿の正面にでる。神殿は「おちば・神殿を中心に 四方から囲んで礼拝するように四つの「礼拝場」があり、ここは神殿の南礼拝所の前。南側には 写真でよく目にする大きな門が建つ広い参道がこちらに延びている。この山門のすぐ南下の浅い谷筋を東の山並から流れ出た布留川が西へこの広場沿いを流れ下る。また、布留川の向こう側の川沿いに沿って天理大学・天理参考館の入っている「おやさとやかた 南棟」が見えている。この東礼拝所前の正面広場向う右手の山の森の中に石上神宮があり、その山の間からまっすぐ西へ布留川が流れ下る。ここはその扇状地のちょうどその中心部で、布留川の制御には苦労しただろうが、山並を背に眼下に広がる王城の地をはるか遠くまで見渡せる本拠地に相応しい場所だっただろう。

現在の地名で扇状地の中心部 布留川本流が流れ下る浅い谷筋両岸が布留町 その北側の丘の上が三島町 川の南側が杣之内町で 物部氏の居館や生産工房・倉庫が立ち並ぶ本拠地の中枢部であった。

【 現在は 神殿などの天理教本部の諸施設や広場などがある天理教の聖地「おやさと」 2012.5.19. 】

古墳時代の居館・生産工房・祭祀の場など物部氏の本拠地(1) 布留遺跡 三島・布留地区



神殿 手前 西側から 東側 神殿とその奥 白砂の広大な広場・天理教本部の向こうに布留の山並み



南側 神殿の正面



南側 大門



神殿 南礼拝所正面神



殿広場の北東側から 神殿の東礼拝所を眺める



神殿広場の北東側から 神殿の東礼拝所



この神殿のある場所が 布留遺跡 三島（里中）発掘調査地区。

古墳時代 布留川分流の流路が変わる氾濫原で古墳時代の井戸以外に遺構検出されなかったところで、特に 5～6 世紀の木製刀剣装具類(把装具・鞘)が出土。また 流路からは大量の鉄滓・砥石などの鍛冶関連遺物や土師器・須恵器・木器 などが出土した場所で付近に大掛かりな武器工房があったと見られている。

また、南側の門の両側は三島 堂の西・東発掘調査区で 5～6 世紀 玉未成品・石核・剥片が出土した場所で、玉工房とのかかわりが推察される。

ここが扇状地の中心地だったために 主要遺構は出土していないが、その遺物の豊富さから この地が物部氏の本拠地の中枢部と推察された。

神殿前の広場を山端へ向かって東へ 南北の広い舗装道路を挟んで 南北に長い建物 おやさとやかた東棟の南部分の前に出る。この東棟の南部分周辺が布留遺跡の堂垣内調査地区である。

ここからは 祭祀にかかわると考えられる石敷遺構(住居跡を囲むと推定)が数箇所検出され、その周辺から土器片に混じって、祭祀の遺物(滑石製模造品ガラス製小玉・碧玉製管玉など) や復元するとそれぞれ 10 固体を超える多数の円筒埴輪や朝顔形埴輪の破片等が出土した場所である。居館周辺で行われた祭祀に使われ、廃棄された遺物であるとみられる。



神殿側から東方向 親里やかた 東棟の東南部と布留の山並

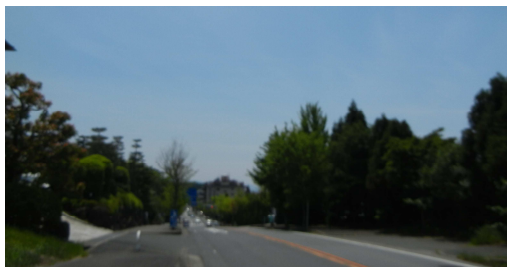
東のおやさとやかた東棟の前の道から やかたの北東部を東へぐり抜けると 緑の美しい並木道 布留の丘を南北に走る広い県道 51 号線(天理環状線)豊井町の T 字路に出た。

この道の東側角にも立派な天理教の建物(天理大学の学寮のようだ)が建っている。

この T 字路が天理教本部の敷地の北東端。布留遺跡の北東端 豊井宇久保調査地区であるが、やかたの中を通り抜けたので、遺跡調査地点であるとはきづきませんでした。

この地点は古墳時代 布留川の山から扇状地への流れ出し部近くで、西へ流れ下った布留川分流の北岸の地であるという。西へ張り出す小さな尾根の上のようで、県道 51 号線と T 字で交わる西への道はなだらかな坂。また、この県道も南に少し行けば、布留川が流れ下る布留の交差点であるが、なだらかな坂が続いているようだ。

この豊井宇久保調査地区からは 古墳時代の掘立柱建物・井戸・土器溜まり遺構 と中世の濠が出土し、土師器高杯(60 以上)・壺・甕・須恵器甕・滑石製模造品(勾玉・管玉・剣型石製品・有孔円板・白玉)・鉄鎌などミニチュア農工具など祭祀に使われたものが遺物として出土している。



東の布留へゆるい坂道 県道51



T 字路に建つ天理教施設



T 字路を西へ下る坂

布留遺跡の北東端周辺にあたる豊井町周辺

この交差点南西隅は布留川分流の北岸に当たり、掘立柱建物遺構や数々の遺物から、ここにも物部氏の居館があったと推定されている。この豊井地区から南西側三島地区の氾濫原そして布留地区へと続く布留川北岸の傾斜地に物部氏の中枢部 居館・祭祀の場・生産工房などがつらなっていたとイメージされる。

扇状地の中央 神殿の広場から ならかな傾斜地を布留川の北側地区を東の山端まで登ってきたことになるのですが、巨大な建物が立ち並ぶ天理教本部の敷地内を抜けてきたので、のぼりの傾斜地に気づきませんでした。

この交差点のすぐ北側は建物が途切れ、山裾を巻いて道が続いているのが見えたので、今歩いてきた扇状地全体を見たくて 少し北へ寄り道する。天理教本部の敷地の中は直接見られる場所はなかったのですが、ならかな傾斜地に緑の樹木が広がる果樹園の向こうに神殿はじめ 諸施設の屋根が見え、遠く 葛城・二上の山並が浮かんでいる。やっぱり随分登ってきたようだ。



県道 51 号線 豊井町の少し北側から見る布留川の扇状地の景色

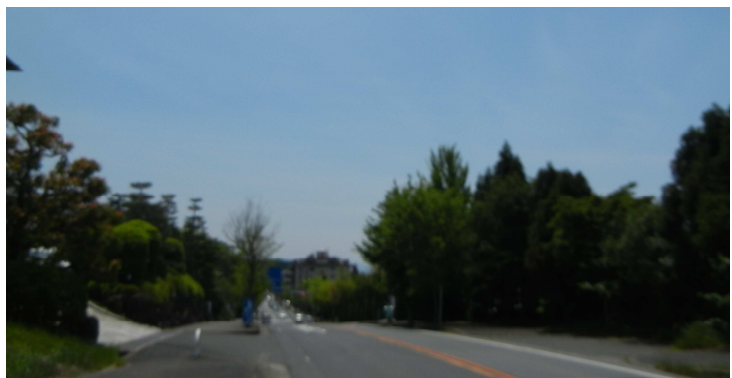
2012.5.19.

天理教本部の施設の大屋根が木々の間から見え、その向こうに 葛城・二上山 の山並が浮かぶ
ずいぶん高い丘に登っていることに気がつきました

豊井町から県道51号線を南へ 緑に包まれた中に大きな天理教の施設が点在する広い道のならかな起伏をいくつか越えると見覚えのある布留の交差点で、谷筋を東奥へ入る道に、石上神宮の案内板が見える。
ここより東の山側は 布留川が流れ下ってくる細い谷筋。
布留川に沿って 谷の奥から布留の古い集落が続いている。
また、すぐ南の橋の下 狭い谷を布留川が西へ流れ下り、谷の向こうの枝尾根の森の中に石上神宮がある。



布留の交差点



3.3. 布留川の扇状地への流れ出口 「布留」交差点 周辺



布留の交差点 布留の交差点のすぐ南を布留川が流れ下る 2012. 5. 19.

石上神宮まで行くと 講演会に遅れそうなので、布留川の扇状地への流れ出口周辺を見てから、布留の交差点を布留川に沿って下り、布留遺跡のもうひとつの中枢部が眠る対岸の杣之内地区 天理大学のキャンパスを通過して、隣接する天理参考館へ向かうことにする。



布留川にかかる「布留大橋」の横から布留川沿いを東に登って行く坂道を少し登ると 右手に石上神宮への別れ 2012.5.19.



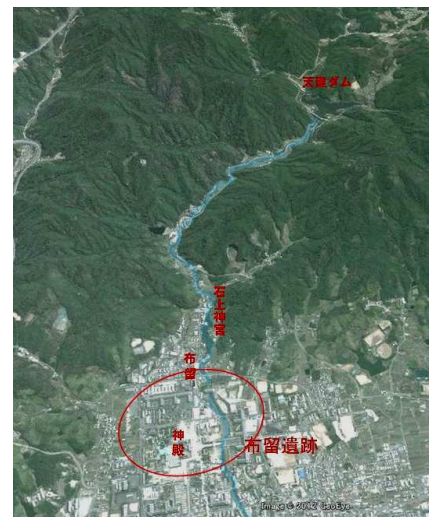
布留川の上流側 狭い谷の崖の底を流れ、今は水がないが 雨が降ると一気に水位が上がりそうである

布留川と石上神宮の森との間を坂道が奥へ続いている。振り返ると天理教の施設の屋根が見える高台にいて、布留川はずっと下の谷底を流れている。

布留川は両岸が丘の崖になっている狭い谷を流れくんだり、布留の大橋周辺で一気に広いところへ出る。大雨にでもなれば、川幅が狭いので うまく制御しないと鉄砲水だろう。

布留遺跡の辺りが、古墳時代 幾度となく流路をかえる布留川の氾濫原だったのにも納得できる。物部氏には 鉄の技術・渡来人の技術があったゆえに、この地に本拠を構えることができたとも思えてくる。この布留川の奥に洪水調節や上水確保のためなど多目的ダムとして「天理ダム」が作られたのうなづける。

この道をまっすぐ行くと 石上神宮の鳥居の前へ出て、南へ行けば山之辺の道 そのまま谷筋を溯れば、地図によると北岸を天理ダムへ行く幹線道路に合流できるのですが、午前中に 天理大学キャンパス内の布留遺跡杣之内地区を見ておきたいので、ここで引き返す。午後 時間があれば、再度もう少し奥まで 布留川を歩いてみたい。



3.4. 布留の十字路から天理大学キャンパス・天理参考館へ 布留川南岸の杣之内地区

物部氏の布留川対岸の本拠地 生産工房や居館が立ち並び、大溝が開削されていた杣之内地区



天理大学のキャンパスへの入口 布留川にかかる橋 おやさとやかた南棟の東半分を大学が使用しているようだ

布留の交差点に戻って 布留川の北岸沿いの広い道を西にくだる。

布留の交差点のすぐ下の部分は川と少し離れて川が見えないが、北側が神殿のある天理教諸施設 南側が杣之内地区で、広場を通った時には気がつかなかったが、意外にも布留交差点の下流側も狭い崖状の谷で、思いのほかの傾斜である。

カーブする坂道の向こうに大きなやかたが見え、天理大学の横幕がかけられている。この建物は布留川に沿って建つおやさとやかた南棟で その東半分を大学が使用しているようだ。道が川に沿うところにこの南棟に行く大きな橋が架かっており、ここが天理大学のキャンパスへの入口。天理大学のキャンパスへ橋を渡る。

川の東奥正面 大きなやかたの建物の下を川が潜り抜けているのが見える。 このやかたも神殿を中心に「おやさと」を取り囲むやかたのひとつ。遠大な計画が進行していることが実感される。



また 樹木で中が良く見えないが、橋の南東側の川沿いの丘の上のところが、布留（西小路地区）で、5世紀を中心とする柱穴・土坑・溝など祭祀に関係した遺構・遺物が集中して出土したところである。

また、土坑のひとつから土師器杯・高杯・ミニチュア壺や緑泥石製有孔円板などと共に U字型鉄製鋤先が出土している。

橋を渡ると建物玄関前から東側 建物の端の向こうまで広い駐車場と広場が続き、東の山並まで見えている。

おやさとかた南棟の建物の東端にあたるこの布留川の川岸からこの広場奥までが、対岸の布留・三島地区にならぶ もうひとつの物部氏の本拠の中枢部 杣之内調査地区。建物の端に出るとぱっと 視界が開け、天理大キャンパスの駐車場 広場の向こうに 南北に並ぶ布留の山並が見え、この山並の麓の丘を北から南へ県道51号線。

正面がほぼ布留の交差点あたりで 右手手前の山すその森の中に石上神宮があるが、みんな緑の中に埋まっている。



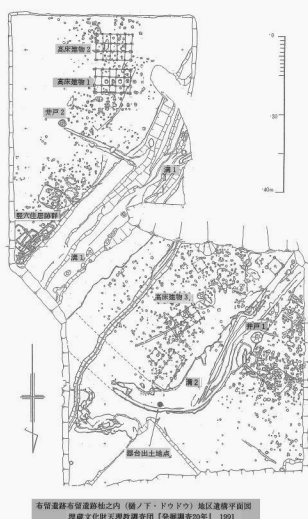
天理大 杣之内キャンパス 物部の本拠地遺構がうずまる調査区周辺 布留川沿いの駐車広場から 布留の山並を眺める 2012.5.19

この写真に続く右側が 居館・生産工房・祭祀の場などの建物が立ち並ぶ物部氏の本拠のもうひとつの中枢 杣之内調査区。

布留川の流れ出し口 布留にばかりに頭が行っていて、写真には ちょっと位置が北にずれて 調査区全体は写っていないようだ。

この写真に続く左側の布留の川岸が、先に示した布留（西小路地区）である。

また、物部氏はこの扇状地を流下る暴れ川 布留川を制御するため、この原に南東側から北西側に流れる大溝を掘り、この大溝の両側に建物を建てて 本拠地を築いたという。



物部氏の中核 玉作り・鉄器の生産工房群や倉庫群の遺構図

布留川に沿って建てられたおやさとかた東棟の中を通り抜けさせてもらって、キャンパスの南側にでると この東棟の建物に平行して 広い大通りがキャンパス内を東の山際まで通っていました。

この道が杣之内地区のメイン路で天理大学のキャンパスの西隣には天理高校や小学校もある。

また、この南棟の西側半分には天理参考館が入っていて その真ん中を貫いて この道路と交差する形で 大門から天理教神殿 南礼拝所への大通りがありました。



大学のキャンパス内を東西に広い通りが山際までのびていました 2012.5.19.

チリひとつなくきれいに整備されたキャンパス内 学生は礼儀正しく、本当に歩いていて気持ちがいい。

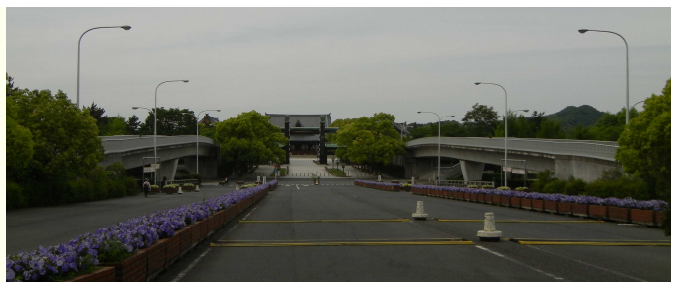
ただ難点は 授業のない休・祝日 学食がなくなると 自動販売機以外 まったく喫茶も食堂もないことです。

西へ 少しこの道を下ると 神殿・大門へ通じる大通りとの十字路。

南棟の中を潜り抜ける大通りの西に大布留展の大きな幕が掲げられた天理参考館がありました。

昼食は食いはぐれましたが、時間的にもちょうど良し。

大布留展を見て講演会を聴講。その後で、石上神宮までの walk を再開する予定。

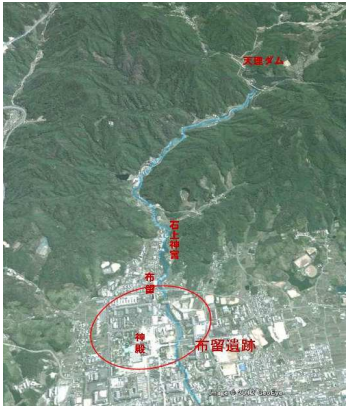


天理大学キャンパス大通りとおやさとかた東棟の中を突き抜けて 大門・神殿への大通りの十字路周辺 2012.5.19.



おやさとかた東棟の西半分が天理大学付属天理参考館 2012.5.19.

3.5. 午後 再度 布留の丘から石上神宮へ



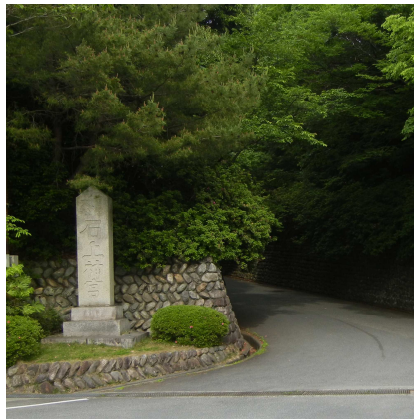
神殿・大門の南にかかる大橋から 東 布留の山並 2012.5.19.



天理考古館で開催中の大布留展そして講演会を聴講したあと、再度布留川縁の道たどって、布留の丘の上 石上神宮へ。

布留の交差点のすぐ横から石上神宮への道があるのですが、もう一度 杣之内地区を布留の丘から眺めたくて、県道51号線をそのまま500mほど南へ行って、石上神宮の参道から行く。布留の交差点の南側は田園地 視界が開け、東側前方すぐ先には 県道脇まで石上神宮のある尾根の森 また、県道の西側には広く田園地帯がひろがり、その向こうには天理大のキャンパスが見える。

石上神宮の尾根が県道にぶつかったところが、石上神宮への参道の入口で、道の西側に駐車場が整備されていて、ここは杣之内地区を眺める格好の展望台である。



石上神宮参道の入口



県道をはさんで西側 石上神宮の駐車場

南北に伸びる県道は布留川が作った扇状の傾斜地を横切るので、丘の上から見晴らす形で、天理大キャンパス全体が眺められる。中央奥遠くに 生駒山のシルエット 右手緑のベルトが布留川の後ろに神殿 左手には 天理大学おやさとやかた南棟が見えている。大布留天で買った図録の布留遺跡図を開いて 遺構の位置を確認する。



県道51号脇の石上神宮駐車場から西側 布留遺跡 杣之内地区が眠る天理大学キャンパスの眺め 2012.5.19.



遠跡の東側の高台 石上神宮参道入口より 布留遺跡を眺める 2012.5.19.

しとしきり、図録と前方に開ける展望を見比べて 今日の布留遺跡の遺構や遺物の出土地を訪ねる Walk のまとめとする。

布留の名前は良く知っていましたが、今回 やっと全体像が判ったような気がしました。

それにしても 物部氏はヤマトの軍事を担ったとの印象ばかりが 頭にあったのですが、祭祀の重要性も見直さねば・・・と。

この初期大和王権といえども 弥生からづく 祭祀が武器のひとつであったのでは・・・と思えるほど数多くの遺物が物部の本拠地から出土しているのには ほんとうにびっくりでした。

そんなイメージを抱きながら 石上神宮の参詣をして その奥 布留の交差点から 川の北側の集落の中を抜け、天理ダムへ向かう県道との合流点へ出て、引き返してきました。地図で見るとこの合流点周辺が扇状地の頭で、古代には布留川が幾多の氾濫を繰り返し、ここを頭にして 流路が変化して 布留の扇状地が形成されたと思う。

2012.5.19. タ 夕暮れの布留の丘を下りながら Mutsu Nakanishi



石上神宮の境内とその奥 布留の高橋周辺 2012.5.15.